慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	農産物価格についての近著
Sub Title	
Author	小池, 基之
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1936
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.30, No.5 (1936. 5) ,p.731(145)- 739(153)
JaLC DOI	10.14991/001.19360501-0145
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19360501-0145

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

農産物價格についての近著

小池基之

農業が市場經濟に織り込まれてゐる限り、價格の問題を無視しては農業問題の理解は不可能である。殊に世界農業恐慌以來、農産物價格の激落による農民の窮迫化は販賣統制・生産統制等による價格統制政策を以て農業政策の主流となすに至つた。その最も著しい例としてアメリカに於ける嘗てのAAAの活動を擧げることが出來やう。(コアメリカ經濟及經濟政策」三二三—六及び三三八頁以下)又ヒットラア内閣の行つた最初の農業政策の基礎となつた、ナチス=ドイツ國權黨聯立獨裁政府の最初の農業食糧大臣フーゲンベルグの農業理論は、國内市場の回復によつて外國商品に對する購買力が復興し、從つて世界貿易も亦隆盛に赴くといふ見方から、國内經濟の繁榮は農業の復興によつて齎らされ、農業の復興は先づ農産物價格の騰貴に俟たなければならないとなすものであつたが、フーゲンベルグに代つて食糧大臣の椅子を襲つたダレ博士も農民の地位の確保は價格の如何によつて左右されるのではなくして、國民的權利によるものであると主張してゐた初めの立場を變じて、結局農業統制によつて生産者にも消費者にも正當と認められる農産物價格に安定せしめることこそ農業政策の基礎としなければならないと認めるに至つてゐる。我國に於ても米、小麥、野菜等あらゆる農産物が價格統制を望んでゐ、又農林省には販賣改善課が設けられ、

農會、産業組合、養蠶組合等もその仕事の主力をこの方面に集中してゐる。

資本主義組織を前提とする限り價格政策によらない農業政策が意義のないことは明らかである。農産物價格理論はこれ等の政策の出發點であり、これ等の政策の基礎として先づ農産物價格、その形成の特殊性、並びにその理論が究明されなければならない。この意味に於て農産物價格に關する研究は充分の存在理由を持ち得るものであらう。

次に農産物價格に關する近刊二種についてその内容を紹介しやう。

A　Bertrand Nogaro; Les prix agricoles mondiaux et la crise. Paris, 1936.

本書はその序文に從へば、世界の主要農業市場の研究に對して獨創的な貢献を爲さんとする意圖を有するものではない。その目的は簡單にその各々の外觀を描寫しつゝ最近の價格曲線を辿り、それを生産と消費について我々の現在有する事實と考へ合はせて見やうと云ふにある。農産物卸賣價格を構成し、且つ動かす諸條件の分析は價格の一般的變動の考察、及びそれを通じて（間接にではあるが）貨幣理論に資するものであると共に、又最近に於ける卸賣價格の、從つて農産物價格の暴落が經濟恐慌の主要な徴候であるのみならず、又主要な要素の一つであり、從つて價格變動それ自體の研究は恐慌それ自體の研究に寄與するものであらう。

本書の第一部は卸賣價格、特に農産物價格の最近の變動、及び生産總額並びに滯貨についての分析に充てられ、第二部に於ては世界農業市場、小麥、及び砂糖、肉類、珈琲、棉花、護謨、木材、其の他の市場の分析が爲されてゐる。著者に從へば、農産物價格と雖も需要と供給即ち生産額及び流通過程に置かれてゐる商品の關係によつて變化する。カナダの小麥プールは小麥價格の時間的・空間的な開きを少くし、特に一九二八年の大豐作に際してもその崩落をある程度に押し止めた點に於て、市價の安定者としての大なる功績を示したのであるが、この供給の過剰は結局消費の減退と各國經濟一般の破綻に伴ふ市場の狹隘によつて小麥價格の急激な落勢としてあらはれざるを得なかつた。即ち「市場の組織に關して採られた自由主義經濟原則に最も反對の諸方策でさへも、價値の傳統的な理論に對して、暗默のうちに、しかも疑ひなく從屬を示してゐるものである。」

著者に從へば工業生産物價格に比して農産物價格の特質は、農業生産本來の性質から、供給の需要に對する適應性の低いことに求められる。農産物價格は十九世紀末以來長期的傾向としては過去のそれと反對の趨勢を示して來たのであり、特に一九一九年の高價格以後農産物價格は一般に低落を續けて來たのであるが、その原因は戰爭の結果齎らされた一般的過剰生産、並びに各市場相互間の連帶性に存する。生産制限の困難な農産物にあつては、價格の變化は供給の變化がより強い要因として作用する。農産物のうち工業原料品については工業恐慌によつて制限され、又食料品について一般に云はれることは需要の非彈力性である。從つて價格下落の原因となつたのはむしろ生産の異常なる增加及び滯貨の激增である。農業恐慌に伴ふ市場の狹隘性によつて一層激化される工業恐慌は、農産物特に原料品についての消費の減退を伴ひ、又一般恐慌の結果購買力の減少は過少消費として市場の不均衡をもたらし、本來の客觀的な過剰生産に相對的な過剰生産を附け加へるが、それは第二次的な現象であつて、主要市場について爲された分析の結果は、近來の價格激落の主要原因が過剰生産であるとなすことをさまたげるものではないと主張する。こゝに三二年以來特に强調されるに至つた農産物販賣統制乃至生産統制の根據が存する。

しかし分散的な農業生産に於ては生産統制は種々の困難を伴ふ。又プールは、前述の如く、價格の下落を一時遲延するに過ぎない。從つて生産統制は國家を主體とすることが多い。又アウタルキー政策としての國家活動は、生

産と消費との分離によつて世界的性質を持つてゐた市場を孤立化し細分化する傾向をとるに至つてゐる。それは、海外の收穫が充分に需要を充し得る場合に於てすら、技術の進歩並びにアウタルキーの政策によつて生産を刺戟し、ヨーロッパの輸入諸國に於ける販路を制限する。このヨーロッパ諸國に於ける農業生産發展の爲めの政策は、海外の諸國がその工業を發達せしめ、ヨーロッパの供給者の販路をそれ丈け縮少せんとする政策と正に對蹠的立場に立つものである。

兎に角恐慌以來、個々に又は集團的に、或ひは國家によつて、或ひは協同組合等によつて採られた政策は決して所期の目的を充分に果したと見ることは出來ない。そこでその解決は世界市場の本質により、一致する方策への歸着のうちに求むべきであらうか、又は新しい組織の形式の探究のうちに求むべきであらうか。世界市場を對象とする農産物に於て生産諸條件の差異は自由競爭の原則への復歸を困難ならしめるであらう。尙世界市場全體から見れば小麥のやうな農産物については生産額の變動は極めて少く、又近代的農業保護主義への復歸及び生産費の相違に對する保證は輸出國にとつてのみならず輸入國にとつても利益であると考へられる。戰爭は需要供給の正常なる機構を歪めて、價格と生産との問題に新しい姿を作り出した。戰後の極端な生産の擴張に次ぐ價格の暴落はその自然的な回復を困難ならしめた。即ち價格の問題と生産の問題とは別に存續する。そこで國家の生産統制が特に採り上げられなければならないか、或ひは價格と生産との間により伸縮性のある紐帶を作ることに努められなければならぬ。しかも著者によれば「舊きものに代へられ得べき新しき方策は、明らかに、未だ市場の組織についての無數の試みの域を脱しないものである。從つて我々にとつては、現在の恐慌渦中に於て農産物價格の低落について爲されてゐる論爭が、我々を、舊き經濟への復歸に向はせるか、新しき經濟に向はせるものであるかを云ふことは尙早であるかのやうに思はれる。」

B　本位田祥男著「農産物の價格統制」有斐閣、昭和十年十二月

本書は三部に分れる。第一部は農産物價格論であり、第二部に於ては各國に於ける農産物價格統制の實際が述べられる。（カナダの小麥プール、ブラジルに於ける珈琲輸出統制政策、スイスに於けるチーズの輸出統制、丁抹に於ける農産物の輸出統制、我が國に於ける生絲の價格統制、生護謨の輸出統制、米棉の生産統制）そしてこれ等の實證的研究の歸結としての農産物價格統制の理論が第三部を構成する。

流通經濟内に於て第一次的に分配を決定するものは價格の問題である。價格の低下は利潤・勞賃の低下を齎らす。特に企業獨占の强い場合、又は容易に他の企業に轉ずることが不可能な場合には、利潤は平均化せられることなく、往々にして高利潤又は低利潤を長い間存續せしめる。農業はかゝる企業の一つである。殊に農業生産に於てはその勞働組織の特殊性から、普通に、分配の問題は經營内に於てではなくして、商業資本と農民自らとの關係に於てあらはれる。「工業勞働者は其の賃銀を雇主たる工場より支拂はれるが、自らの計算に於て農場を經營する農夫は其の買主たる商業資本より其の賃銀を支拂はれる。」こゝに反産運動の根據が求められる。農産物價格は農民への報酬を決定する要因として單に農民の關心であるばかりでなく、原料品の獲得及び製品の市場として産業資本の、又食料品の騰落を通じて消費者の關心となつてゐることは明らかである。

著者に從へば農産物價格變動の短期間の特質として、一、價格變動の幅が大きく且つ高低の頻繁なこと、（年と年との間又同一年内）、二、季節的變動の差が擧げられ、長期變動の傾向としては産業一般の長期波動と大體に於て同

じ傾向を辿り、工産物價と農産物價とは相互に相關々係、及び類似傾向をもつてゐるが、農産物の購買力は一八八〇年頃を最高として下向の傾を示し、工産物は反對の傾向を示してゐる。かゝる現象は農産物價格形成上の特質から生ずるものであるが、農業生産はその對象が生命を有することに大なる特質をもつてゐる。その結果價格形成上次のやうな特質が生ずる。

一、供給側の特質。

（一）生産に長期間を要すること、從つて生産の途中に於て生産を調節し得ないこと、投機的性質を有すること、常に信用の需要者たらしめられること。

（二）生産の季節的なこと。農業は他の産業に比して環境としての氣候風土に支配せられること大である。このことは生産の調節を困難にし、又商品の耐久性のないことは時間的にも空間的にも市場性を少くする。

（三）勞働に於ける特質。農業勞働は有機的であり逐次的であるから單純勞働に分解することは不可能である。このことが農業に於て機械の發達しない所以であり、大農制度の普及をさまたげてゐる點である。又（A）、農業勞働が季節的に勞働の性質を變へるのみならず、勞働量の需要も異なるところから當然過剰勞働が生じて來る。（B）農業經營に於ては勞働は多くは自家勞働であり、その收入は勤勞所得の性質を帶びるので、かゝる經營の下に於ては生産費の算出は極めて困難であり、特に不景氣に際しては農産物價格は現金支出の限度に押し下げられる傾向を有する。

二、需要側の特質。農産物に對する需要は一般に非彈力的であると云はれるが、これが季節性と相俟つて暴騰暴落の原因となる。

三、配給組織の特殊性。農産物の時間的・空間的調整の必要から配給資本（買集商・問屋）と農民との經濟關係を生ずるが、農産物の市價は商人の仕手關係によつて定まり、このことは結局價格變動を大ならしむる一つの要因である。

從つて農業經營にとつて必要なことは價格の安定であるが、これ等の特殊性から農民はその價格の回復を工業との連帶性に期待することは出來ない。農民は常に自らの努力によつて高い農産物價格を維持し、政府は又農民の爲めに之を調節する必要がある。しかもこれ等の特殊性のうち技術的特質に基くものの改善は急激には行はれ難い。從つて主力は其の經濟的特質の改善に注がれてゐる。

農業の多くの經濟的不利は小經營にあるが、大經營が技術的に制約せられてゐる以上、先づあらはれて來るものは流通過程に於ける統制である。しかも價格政策は強力なる經濟的獨占と權力とによる強行の外は公定價格を決定することは不可能であるから、農産物の價格統制は供給數量の調節により、一般市場價格の構成原理を通じて價格に間接に働きかけるに過ぎない。從つてこの場合問題となるのは産業組合を中心とする協同組合・販賣組合であるが、農産物價格の激變が配給組織に於て商人の支配下にあることにその一因を置くものである限り、販賣組合の發達はそれ丈商人の勢力を排除して價格變動の幅を出來る丈少くするものである。

しかし販賣統制は買入れ又は商品を擔保とする資金の融通によつて季節的變動、一時的價格暴落乃至數年間の年次的變動を調整することは可能であるけれ共、長期變動に對しては單なる販賣統制はその目的を達し得ない。長期過剰生産に際しての販賣統制が如何に滯貨を累積し、潜在的に市價を壓迫したかは我が生絲、カナダの小麥、ブラジルの珈琲等に於て明らかに示される所である。

これが特に農業生産が販賣統制の外に生産統制を必要とする所以である。しかし生産統制は種々の困難を伴ふ。(一)農業生産物は農民の支配から技術的に超越せること、(二)自家勞働の結果價格の下落は、それにも拘はらず、尙一層、生産を增加する傾向にあること、(この傾向は小農經營に於ては一層著しい。)更に作付反別の制限による集約的經營への進展、(三)一部の生産統制の無價値なこと、(その爲めに生産制限をしない人々から或る程度の賦課金をとり、之を生産制限者に分擔する等種々の手段が講ぜられる。)こゝに生産統制の限界があり、その主體が考へられるわけであるが、結局協同組合主義者である著者は、農業の如き分散せる經營に於ては農民の强固なる團體の組織が必要であることを力說する。

以上の二著を通じて云ひ得ることは、その何れもが農業生産の特殊性を、或ひは需要の變化に對する供給の不適應性、或ひは農業生産の對象が生命を有することに基く生産の――從つて勞働の――季節性、環境への從屬性等の自然的事實に求めてゐる、そしてこの上に農産物價格の特殊性及び價格政策＝販賣統制・生産統制が基礎づけられてゐるといふことである。かゝる見方は農業生産を自然・生物學的諸過程として、自然への從屬性に於て、土地と空間との聯關に於て理解せんとするものであつて、生産過程に於ける「人間の人間に對する諸關係」はその根底に於て多種多樣な化學的・生物學的・力學的自然法則を有する技術的諸關係の上に立つ「自然に對する人間の諸關係」によつて置き換へられてゐる。農業の技術及び經濟は一定の社會經濟的環境の下に於て理解さるべきである。農業は生産の技術的性質から機械化し難い傾向をもつてゐるが、それは本質的なものではなく、本質的な理由はむしろ經濟と技術との矛盾のうちに存する。元來農業組織のうちには、發展した資本主義的諸環境の下に於てすら、非資本主義的要素を多分に殘してゐるので、農業生産の特殊性、殊に我國過小農の分析はこの非資本主義的要素の分析、それの資本主義的經濟環境の下での轉形の過程が一つの課題として考へられなければならないのではないか。

然しながら、それは內外の幾多の資料を驅使してなされた實證的研究であり、各農産物市場の分析、各國の農産物統制の精密な調査を含むものであるのみならず、統制の必然性及びその方法について、又實行に際して顧慮さるべき諸條件についての多くの示唆をもつものである。我國に於て米穀自治管理、蠶絲業統制等の問題が都市と農村との相剋として關心の對象となつてゐる今日、我々のこれ等の書から學び得るところは非常に多いと云はねばならない。

――一九三六・四・一七――